

# グループ全職員がいざという時に 命を救う救命の連鎖

達生堂グループの全職員が、職場やふだんの生活の中で心肺停止などの急変者が出た場合、どう対応すればいいのかを学ぶ「急変対応勉強会」（救急災害医療委員会主催）が5月18日、城西病院で開かれました。この勉強会は、毎年新入職者を中心に実施。今年は2回に分け、1回目は18日に開かれ、24人が参加しました。

勉強会は、委員長の村田智史医師が、CPA（心肺停止）の急変者を発見した時、反応の確認、通報、心肺蘇生（胸骨圧迫やAEDによる処置）を医師やJRRT（城西グループ急変対応チーム）が到着するまで切れ目なく行う、「救命の連鎖」を解説。「急変が出た場合、1人で心肺蘇生をやってAED（自動体外式除細動器）を取りに行って処置をするということにはできない。まず、大声で人を呼ぶこと。チームとなって対処することが大切」と話し、急変者を発見した後の反応確認、通報、呼吸確認、脈拍確認、CPR（心肺蘇生）の切れ目ない救命の連鎖を具体例を挙げて対処法を講義しました。

引き続き、実技ではCPAの人に行わないといけないCPRとして胸骨圧迫（心肺蘇生）とAEDの使い方を実習。4人1組になって、JRRTのメンバーの指導でダミーを使い、胸骨圧迫のやり方やAEDの安全な取り扱い方法をJRRTのメンバーから教わりながら、真剣に取り組んでいました。



2022年5月19日



©Tasseido group

